

図書館だより

89

What is YA?



YA=Young Adult
子どもじゃないけれど、
完全におとなでもない、
おもに10代の人たちを対象にした
サービスのことです。
サービスの一部を
ご紹介します！

図書館の
YAサービスって
何ですか??

あの～



そもそも、 YAってなに？

アメリカの公共図書館
で使われ始めたと言わ
れ、YA 図書・YAコー
ナーなど用語として用
いられます。西東京市
図書館でも、大人と子
どもの境目の世代に向
けて、独自のサービス
を行っています。

どんな本が あるの？

主に**青春期特有のテー
マ**（友情・恋愛・自立・
生き方・勉強法・部活
動・進学・就職）など
を扱った、読み物・絵
本・ノンフィクション。
本の背の下側にある、
水色のラベルが目印で
す！

YAコーナーの ご案内♪



コーナーの一例
(ひばりが丘図書館)

YA向け情報誌 『CATCH』！



毎号、様々なテーマで
オススメの本を紹介し
ています。**YAと共同
編集**中。1988年創刊、
2022年**100号**を迎え
ました！

図書館は、YAサービスを通して、
YAのみなさんの**素敵な本との出会い**を応援します。

詳しくは、図書館
HP>YAのページを
ご覧ください。



★声の広報をお届けしています。

お知り合いの方でご希望の方がいらっしゃいましたら、谷戸図書館(Tel.042-421-4545)へお問合せを。

「はじめまして、短歌。」

令和4年11月19日・12月10日に、ひばりが丘図書館でYAを対象とした全2回講座、「詠んでみよう、わたしの短歌」を開催しました。講師は西東京市にもゆかりのある歌人、小島なお先生。短歌について詳しく学ぶとともに、その楽しい世界を味わうことができました。

第1回「短歌を学ぼう」 11月19日(土) 参加者：5名

第1回は短歌の基礎について学びました。むずかしそうな短歌ですが、ルールはたった一つ。「5・7・5・7・7」を守るだけ。実は気軽に自分の気持ちを伝えられるツールなのです。



短歌の穴埋め問題に取り組んだり、気に入った短歌を選んだり、短歌の学びを深めています。

みんなちがって
おもしろいね！



上句「ねむらないただ一本の樹となって」の下句を考え、「よみ」とあわせて発表しました。

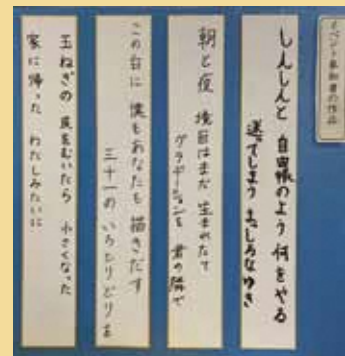
第2回「短歌をつくってみよう」 12月10日(土) 参加者：4名

第1回の復習もしつつ、色々な短歌に触れて「よみ」を深めたら、いよいよ「歌会」です。「歌会」とは、人々が集まって互いに詠んだ歌を発表し、批評し合う会のこと。参加者が持ち寄った計8首の中から、1人3首ずつ選んで投票し、批評しました。どこに惹かれたのか、どんな解釈をしたのか、自分の言葉で全員に伝えました。



先生はzoomでのご参加となりました。ちょっと照れながらも短歌を発表し、歌会スタート！

作者がこめた思い
も聞きました。



参加者の自信作を1首ずつ、全館で展示しました。みなさんはこの歌から何を感じますか？

参加者の感想

- ・思っていたよりもずっと雰囲気も柔らかくて、やりやすいし楽しかったです。
- ・短歌は学校で少し分かったけどでしたが、短歌についてや、ルール、音の数え方についてなど、くわしくなれました！私は短歌に興味をもち、もっと短歌について知りたいと思いました。今回はこのようなイベントをひらいてくれ、ありがとうございました！！

ばく しょ

曝書しました！

曝書とは、本来は書物の虫干しのこと。図書館の所蔵データと実際の本の状態を突き合わせて、本がなくなっていないか・正しい場所に並んでいるか等を確認する作業を、長年の習慣で今もこう呼んでいます。



図書館の資料をハンディリーダライタで読み込んでいく

全資料(八十万冊)が
終わるまで繰り返します



読み込んだ情報(実際の状態)と所蔵データを突き合わせて、異なるものをチェック。正しく整理する



西東京市図書館では「特別整理期間」として休館している間に、この「曝書」の作業を行っています。今年度も休館にご理解いただきありがとうございました。



図書館員の本棚

『ことことこーこ』

阿川佐和子／著

KADOKAWA 2018年9月

ISBN: 978-4-04-107101-4



いよいよ老親の介護を考える年になり、不安や戸惑いを感じ始めた私が出会った、笑いと希望の介護小説。

「母さんは、呆けた。」父が言ったその日から、わたし『こーこ』の介護人生が始まる。

母のため、母の幸せのため、自分の仕事や生活^{てんしん}を天秤にかけ、しゃかりきに頑張る『こーこ』。天真爛漫^{らんまん}な母『ことこさん』が巻き起こす、様々なアクシデント。介護あるあるエピソードに共感しながらも、クスッと笑える顛末。でも『こーこ』にとってはとてもシリアス。カリカリしながらも何とかしようと奮闘^{ひんぱい}し、疲弊する。

無邪気な『ことこさん』の頭の隅の『母』は、時々そんな娘を心配する。まだ小さかった頃の娘の姿を

重ねて。

・・・頑張りすぎないで。

「呆けているくせに、ちゃんとわたしを観察し、見守ってくれていたのか。・・・わたしがしゃかりきになっていたのを、母は全てお見通しだったというわけだ。」

何もかも一人で背負い込んでしゃかりきになるより、少し引いてみれば見えてくることがある。母の幸せのためと思い込んでいたことも、案外自己満足のためかもしれない。周りには助けてくれる人もいる。一人じゃない。

読み終わってみたら肩の力が抜けた。なんとかなりそう・・・そんな気持ちになれる作品である。

(図書館員N)

にんにん西東京



西東京市図書館キャラクター
西都右京くん

第35回 「田無にあったヤマ」

図書館所蔵の大型郷土紙芝居（全8作）の一つに、向台にまつわる『たぬき山ときつね山』があります。今回はそのお話の舞台となった「きつね山」について紹介します。



紙芝居動画や
参考資料の一覧はこちら

田無のお話に登場する「きつね山」

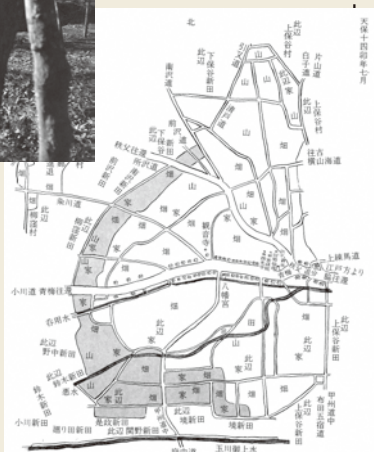
『たぬき山ときつね山』は、男の子が、化かし合いをするタヌキやキツネと向台の山で遊ぶお話です。この他にも、「キツネの嫁入りに招かれた五郎吉」や「狐山で寝た半六」等、きつね山に迷い込んだ男が狐にたぶらかされるというお話があります（『田無宿風土記三』）。それらには、きつね山は現在の南町や向台町の石神井川沿いにあったと書かれています。

田無にあったヤマ

それでは、向台地区（現在の南町から向台町）の石神井川沿いには本当に山があったのでしょうか。実際に向台の地を歩いてみると、石神井川を起点に高低差はあるものの、そこに山があったとは思えないかもしれません。それでも「きつね山」は実際にありました。ここという「ヤマ」とは、実は平地林（雑木林）のことを指し、戦前の田無には谷戸から西原にかけての一带（「谷戸山」や「クラミ山」



▲
石神井川沿いの雑木林
（現・南町の富士見橋付近、昭和35年頃）



「田無村絵図（天保14年）」
（『田無市史 第四巻』p.48）

と呼称）や、向台地区の石神井川沿いにまとまりをもって広がっていました。向台の一带はうっそうとしたくぬぎの林で、キツネやムジナが生息していたため、「くぬぎ山」や「きつ

ね山（たぬき山）」と呼ばれていました。

ヤマは子どもたちの恰好の遊び場でした。夏は昼間でも薄暗いほどナラやクヌギが生い茂り、その無気味さが子どもたちの冒険心を駆り立て、カブトムシやクワガタもたくさん捕れました。

また、ヤマは農家の生産活動においても貴重な資源でした。ヤマがあれば、拓いて畑にしたり、落ち葉を堆肥に用いたりすることができました。落ち葉や松ぼっくりは煮炊きや風呂焚きの燃料にもなり、木々は新屋の建築材になりました。明治期の田無でヤマを所有していた農家はわずかでしたが、そうでない農家は、道路の落ち葉等を掃き集め、堆肥や薪を賄っていました。

そんなヤマも、日が暮れば別世界。真っ暗で、大人でも恐ろしくて立ち入らなかったといえます。ヤマの細道には追いはぎが出て金品を奪われることがよくあり、妖怪がでるなんて噂もあったそうです。

戦後の宅地開発と消えてゆくヤマ

しかし、戦後の人口急増を背景とした宅地化の進展に伴い、田無のヤマは徐々にその姿を消していきます。

現在では、西原自然公園や東大農場・演習林等を残すのみとなりましたが、「西原自然公園を育成する会」や「東大農場・演習林の存続を願う会」等の市民の活動によって、そこにかつての面影を見ることができるようのです。

令和4年度図書館協議会報告

会議を8回、視察研修を2回行いました。

令和3年度西東京市図書館事業評価の2次評価を受けました。また、図書館協議会として、これからの図書館の基本的な考え方を検討していただいています。

視察研修は、多摩地域で子ども向け電子図書館を先進的に進めている立川市中央図書館と2021年3月にオープンし2022年度グッドデザイン賞を受賞した板橋区立中央図書館(いたばしボローニャ絵本館併設)に出向き、施設見学と共に詳しい説明を受けました。

令和3年度図書館事業評価 —図書館協議会による2次評価のコメントの一部—

全文は、図書館内の掲示と図書館ホームページをご覧ください。

◇中央館休館中、各種資料を地域図書館に移動し、市民への提供を継続されたことを評価します。

◇利用の多い児童書の複本購入や資料の入替えは、より一層進めてください。

◇多文化理解を目的とした事業を積極的に実施したことを評価します。

◇コロナ禍のなか「データリテラシー」の講演会を実施したことは意欲的な取組だったと思います。

◇アンケート調査に基づき、シニアコーナーの見直しを行ったことを評価します。

◇「西東京市デジタルアーカイブ」は、今後もコンテンツのさらなる充実が必要です。

◇バックヤードツアーは、図書館にとっても自らの活動を理解してもらうよい機会になると思います。

◇YAという言葉がどれだけ該当世代に伝わっているのか検討する必要があると思います。

◇「第4期西東京市子ども読書活動推進計画」をどのように市民に周知するのかは大きな課題です。

◇コロナ禍で未実施だった武蔵野大学との授業協力が実現できたことを評価します。

◇新しい宅配協力員の参加があったことを評価します。

西東京市図書館のレファレンス事例が本に載りました！

西東京市図書館では、市民の皆様の調査・研究を支援するレファレンスサービスをおこなっています。このたび『図書館にまいこんだ子どもの大質問』に、西東京市図書館のレファレンス事例が2つ掲載されました！

Q.10 さいしょの
にんげんはこども
なの？ おとなの
の？ (p.38)

Q.18 「カビバラ
さん」の折り紙の
折り方を知りたい。
(p.72)



その他、西東京市図書館の事例は、インターネット上で見るができます。



質問は、図書館カウンター・電話・文書・FAX・図書館ホームページにてお受けします。



？ しりたいことがあったら、
？ ? ? ? ? ?
🔍 図書館にきてね！



『図書館にまいこんだ子どもの大質問—司書さんもビックリ！—』(子どもの大質問編集部／編 青春出版社 2022.12 ISBN:978-4-413-23281-4)



「私の世界」

けやき小学校 6年

レファレンスに感謝

私のルーツ調べは、図書館のレファレンスなくしてはなしえなかった。子どもの頃に父母から聞いていた祖父母や曾祖父母のエピソードと戸籍にあった地名から、検索の手がかりになるキーワードをメールに書いて、その地方の図書館にレファレンスを依頼する。すると、10日前後で丁寧な回答が届く。希にドンピシャの回答が届く場合もあるが、関連する資料が掲載された図書を必ず数例ほど回答してくださるので、書名を見るだけで自分が調べたい事柄のアウトラインを思い描くことができる。図書によっては、該当ページを複写したり、図書そのものを近くの図書館を通して貸し出したりしてくださるサービスまであり、至れり尽くせりである。

ドンピシャの例を北海道で紹介しよう。

利用者エッセイ

わたしと図書館

蚊野 秀明

祖母の父親が明治20年代に岩見沢に開いた店と、祖父の兄が明治30年代に深川に開いた店が明治40年発行のガイドブックに掲載されていることが分かり、しかも、その本は国会図書館のデジタル資料として公開されていることまで分かった。

さっそく自宅のパソコンで検索し、ワクワクしながら開いたページに目が釘付けになった。先祖が営んだ店の屋号や紹介文、写真や広告、電話番号。百年を超えて姿を現した先祖の足跡だった。感動して何度も読み返した。かすかな記憶の断片の数々

が繋がって一つのストーリーになった。これら、先祖が生きてきた証の数々は、私が初めて目にするものばかりで、私の力だけでは到底探し出すことはできなかった。図書館の力に感謝の気持ちでいっぱいである。